

研究紀要発刊にあたって

校長 前原和明

附属特別支援学校では、本年度より、「生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり～児童生徒の夢や願いを基点とした『わかはとシステム』の構築～」という新たな2年間の研究を開始しました。この研究は、平成29年度の「私の応援計画」の研究から、令和元年度の「児童生徒の生涯学習力を高める教育課程の編成」へと至り、継続して取り組み続けてきた「生涯学習」を主題としたものです。

さて、この「生涯学習」という言葉を聞いた際に、どのようなイメージをもたれたでしょうか？

ある人にとっては、社会人の生涯にわたる就労と学習の循環である「リカレント教育 (Recurrent Education)」や職業能力の再開発・再教育を指す「リスキリング (Reskilling)」を想起されるかもしれません。この場合、特別支援教育と「生涯学習」の関連性について疑問をもたれる場合もあるかもしれません。また、別の人にとっては、スポーツや芸術などの余暇的なことの充実をイメージされるかもしれません。このように、この「生涯学習」は、様々なイメージを喚起する言葉です。

本研究では、特に「生涯学習力」という言葉を用いて研究に取り組んでいます。この「生涯学習力」は、「主体的にヒト、モノ、コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力」と、本研究では定義をし、児童生徒の教育実践に反映をすることを目指しています。この定義から私が考えたことは、私たちの人としての活動すべては、「学び」に基づくものであり、「学び」という切り口で社会参加を考えることは、学校在学中に終わらず、児童生徒の生涯にわたる発達に大きく寄与する可能性があるということです。このように、本校の「生涯学習力」に焦点を当てた研究は、児童・生徒の主体的な社会参加を実現するための力の育成だけでなく、卒業後に主体的に社会参画を果たしていく個人となることを視野に入れた教育実践ということを強く意識したテーマとなっています。

研究初年度である令和5年度の研究では、先行する前年度までの研究で整理してきた「わかはとモデル」の視点を方法として用い、学校における「生涯学習力」を高めるための授業づくりのための仕組みの構築に実践を通じて取り組んできました。研究では、共同研究者としてご指導いただきました秋田県総合教育センター 進藤拓歩先生、島津憲司先生、秋田県教育庁中央教育事務所 高橋基裕先生、秋田大学教育文化学部 鈴木徹先生、谷村佳則先生、藤井慶博先生、そして、秋田大学名誉教授 武田篤先生など多くの先生方にお世話になりました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

最後に、本校の研究は、「私の応援計画」、「わかはとモデル」、「わかはとシステム」など、独自の言葉を使用することに特徴があります。これらの言葉は、どうしても表現したい本校の特色やこれまで研究に携わってきた本校教員の願う大切な意味を込めたためです。独自の言葉ではありますが、これらの言葉は、児童生徒を中心においた実践を展開している多くの先生方との間で共通理解できる言葉となっているはずです。これまでの研究紀要と本研究紀要を読んでもらうと、このことをご理解いただけることと思います。

研究の最終到達点は、目の前で教育を受けている児童生徒の成長発達です。この本研究紀要を通じて、多くの方々と児童生徒の教育の実践知を共有し、更なる実践が広がっていくことを強く願っております。